

本書の推薦について

本書は循環器画像技術研究会の診療放射線技師の精鋭が、本研究会 30 周年を記念して、最新の心血管放射線技術を隈なく網羅し執筆したものです。

思い起こせば、シネ撮影技術研究会として 30 年前に発足した本研究会は、循環器系画像の精度向上とそれに合わせた検査・治療の理論を体系化する研究活動と普及活動を行い、その後、名称を循環器画像技術研究会として更に幅広く活動を広げてきました。

発足当時はまだ 16mm フィルムも残る時代で、その後に 35mm フィルムおよびその自動現像機が普及し自施設での画質調整ができるようになったことは画期的な出来事でした。それに同期するように X 線撮影装置や II 等の機能も向上し、やっと画質が担保されるシステムとなってきました。1990 年台後半にシネ画像のデジタル化である DICOM 規格や様々な治療デバイスの登場により、血管系検査室の検査・治療は多様化の時代になってきました。

そこで、循環器画像技術研究会はそれまでの研究成果の集大成として、創立 20 周年を記念し、2004 年 3 月『カテーテルスタッフのための心血管画像学テキスト』医歯薬出版（2004）を発刊しました。この時代は、アナログ画像からデジタル画像への移行期であるとともに、デジタル化のために II が FPD に置き換わることが明らかになってきたころでもありました。2000 年台後半からは CT 装置の多列化や MR 装置の機能向上により血管系検査室の業務内容は検査から治療へと大きくシフトしていくように変化してきました。

そのような中で、この機会にアップグレードした本書が発行されることは、この 10 年間を加えた 30 年間の集大成であり、前書と比較することでその有意義性は評価されることでしょう。本書の内容はこの 10 年間を反映した現状に即した構成であるとともに、著者も前書の経験者が半数いることから、長年の知識の蓄えに加え若い力のエネルギーを感じることができます。さらに、前書にはなかった患者を中心とした医療安全に関する内容も付加されており、血管系検査室には重宝な書であると考えます。

また、本書は診療放射線技師の技術向上のためだけではなく、血管系検査室に従事する医師、看護師ならびに他の医療スタッフの知識向上のために重要な内容を含んでいることから、心血管画像学テキストとして活用されることを期待し、本書を推薦いたします。

循環器画像技術研究会

前会長 若松 修

(NTT 東日本関東病院)